

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300740		
法人名	有限会社メープルの里		
事業所名	グループホームメープルの里ときわ		
所在地	〒038-1214 青森県南津軽郡藤崎町常盤字三西田8-8		
自己評価作成日	平成26年8月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不慣れなこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	2. 家族の2/3くらいと	3. 家族の1/3くらいと	4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	2. 数日に1回程度ある	3. たまにある	4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	2. 数日に1回程度	3. たまに	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている	2. 少しずつ増えている	3. あまり増えていない	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	2. 職員の2/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	2. 家族等の2/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に合わせた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念の他に自分たち独自の理念を作り共有している。理念に基づき自分らしい生活を送れるよう、意見や要望に応える様努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域の人と繋がりを持ったまま施設で安心、楽しく過ごせる様、地域の行事への参加、地域の方の施設行事への参加を呼びかけ交流。町内への夏祭り等への積極的参加と地域内での買い物を通じて馴染みの人への再会、会話できるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の人や子供会への行事への参加・協力を通じて、認知症の人と実際に触れ合う事から認知症を少しでも理解して頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の家族や地域住民、民生委員・包括支援センター職員が参加しており、日常生活についての報告や分からない事、困って居る事等話し合いを持ち、助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何事も直ぐに役場へ出向きまたは電話にて相談している。また地域密着型サービス事業所の意見交換会でも役場より1名参加しており、その際にも話を聞いて頂ける場面があり、助言を頂く等の協力を得られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度は事業所内での勉強会で認識・再認識できるように取り組んでいる。夜間は防犯対策の為玄関に施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は外部での研修へ参加できるようにし、報告会を含み勉強会を行う事で個々の認識を再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修または事業所内の勉強会にて再確認し、入居者様が必要になった時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今まで過ごしていた場所と違う場所での生活になるので、どのように過ごせるだろうかとの不安や疑問に思われている点について伺い、理解頂けるよう分かり易い言葉で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ずご家族様へ声を掛け、お話を聞ける様に努めている。また運営推進会議時にはご家族様から意見や要望を聞くように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で職員から意見等を話してもらい、皆で検討し、出た意見は実際に実行し、どうであるか、また次の会議の時に再検討するなどしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務時間は4週8休の確保と勤務調整可能である時は、有給取得できる態勢となっている。研修の参加にて知識を得る機会を持っており、向上心を持てる体制となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務時間内に受講できるように取り組んでいる。また、事業所での勉強会では毎月担当者が内容決定し進行役を務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いのホームを見学する事で様々な取り組みや実際をその場で伺う事が出来、ホームでも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思われている事、望まれている事は何かを探り、ホームでの生活を安心して過ごせるよう取り組んでいる。入居者と接するときは、表情・声のトーン・身振り等不安に感じてしまう事が無い様、相手の立場で物事を考える事を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込に来られた際には施設内を見て頂きながら家での様子を覗く等し、要望・不安をくみ取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺いながら現在の状態から利用できるサービスの様々をお伝えし、いくつか選択できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事を把握し、一緒に作業を行いながら教えて頂ける様に会話を持つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りご家族様にはホームへお越し頂ける様に様々な機会を設け(行事等)一緒に過ごす時間を大切にしている。またお越しになられなくても、毎月お便りにて状態をお伝えしたり、時には電話でお話しするなど、一緒に支えられる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所、昔育った地域、見たい行きたいと話された時は出来る限り早期に対応している。地域で行われている町内会の夏祭り等へ参加し、馴染みの人と会い懐かしんでいる。気楽に来て頂けるよう、広報で施設もアピール、また行事等にも参加して頂ける様に声を掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での役割や様々な活動を通じて一緒にいる職員は仲介役を務めながらみんながみんなと関わりを持つ事が出来る様に支援している。時には入居者同士の口論や、楽しすぎて行きすぎた行動がエスカレートし、事故に繋がらない様にも間に入り、会話をしながら一人一人を見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には状態を伺い、要望等を踏まえ、今後の生活に関して話し合う様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から入居様が想っている事を感じ取る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネから情報提供して頂き、また入居様と会話しながらも情報収集する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りを通じて職員間での情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護担当者は他職員から見て感じている事や、実際に対応した事等や状態変化等について情報収集し、カンファレンス時には話し合いを持つように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事は申し送りする事で他職員へも情報が伝わり、その都度話し合いを持つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応での外出や、顔馴染みの人と交流を図る事が出来る様支援している。また代表が経営している温泉にはいつでも入る事が出来る体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園の園児と一緒に畑で作業を行っている。また小さな子供達と触れあう事で笑顔を引き出して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医に受診し、日常の様子や状態を報告している。やむなく事業所の近くの協力医療機関の医師をかかりつけ医とする場合は本人と家族の同意と納得の得る様にしている。かかりつけ医でなくとも近くの協力医療機関へ緊急時やその時の状態に応じて受診している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームでは看護師は在籍していないが、協力医療機関へは随時相談でき、指示を頂く事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにて情報提供している。また入院中はソーシャルワーカーを通じて情報を伺う事が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化見られた時にはホームで出来る事を随時説明している。また医療機関への入院や協力福祉施設への入所や入所可能な施設の情報をお伝えしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じていつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には町内会の協力を得られる様緊急連絡網にて伝わる体制となっている。避難訓練の実施は年に2～3回行っている。また地域の消防訓練にも参加し、緊急時の対応を出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に配慮した対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様がどうしたいのかを聞き、または会話の中から気持ちを察するように努め、一緒に考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に添える様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回近所の床屋さんが来園し、散髪したり、日常の会話の中でさりげなく美容室へ行く事への働きかけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・お盆拭き・食器拭き・食器後片付けを一緒に行っている。立位不安定の入居者様には椅子に座って行えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人摂取状況を記入する事で把握できるようにしている。また好むものを提供する事で少しでも多く摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所へ誘導すると一人で行える入居者様が殆どだが、皆さんに声を掛け促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ポータブルトイレ利用の入居者様へは、排泄チェック表を確認し、居室へ戻られた際に促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し内服薬の調整をしている。またヨーグルトや牛乳を提供し排便促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴までの間に2～3回フロの日である事を伝え、入浴出来るようにしている。また出来るだけ本人の希望している時間に入れるように努めている。入浴介助は同性介助にて行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの高さを調整する等環境整備をすると共に、個々のペースで休むことが出来る様に、状況を見ながら声掛けし誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の状態の経過や変化等日常の記録を主治医に情報提供し、治療や服薬、調整に活かしている。申し送りにて全スタッフが把握できるように努めている。また、飲み忘れや誤薬を防ぐ為に夜勤・深夜勤・日中のスタッフ、複数の目で確認し、手渡す時には名前・日付を声に出し手渡し、飲み込むまでの見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族からの情報を基に、日々の会話からも入居者様の好みや出来る事を把握し、買い物・ドライブ・茶碗拭き・お盆拭き・洗濯物たたみ等行えるように声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には出来るだけ出掛けられる様にしている。また地域のイベント・祭りの時にはご家族様へもお話しし、一緒に出掛けられるようお誘いしている。地域での顔馴染みの方との触れ合いの機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者様は2名で他の入居者様はホームで管理しているが、買い物や受診の時の会計時には財布を手渡し、支払い出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号を押す事は難しい為、希望時にはスタッフが電話を掛け、繋がった事を確認し本人へ受話器を手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、玄関飾る花を入居者様に活けて頂き飾り、ホールには季節ごとに入居者様と一緒に作った物を飾り付けしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや座敷にて他者に気兼ねなく、くつろいで過ごせる場がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇等をお持ち頂いている。また、ご家族様と一緒に撮った写真を飾ったり、趣味の物を飾ったり、入居してからの様子が分かる写真を貼ったりとそれぞれの好きな物を飾り、個性ある居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じてベットに手すりを取り付け、夜間帯にはホール内にトイレまでの間に椅子を置き、掴まる事が出来る様になっている。また場所も分かり易い様に表示し、居室入口には各自好きなのれんを掛け、自分の居室が分かる様にしている。		